授与機関名　順天堂大学

学位記番号　甲第2508号

Effect of probiotics on the vertical transmission between mother and neonates of Group B Streptococci : A prospective open-label randomized study

Probiotics によるB群溶血性連鎖球菌の母子伝播予防効果に関する検討:前方視的オープンラベルランダム化比較試験

笠井 悠里葉（かさい　ゆりは）

博士（医学）

論文内容の要旨
B群溶血性レンサ球菌（Group B Streptococci; GBS）は妊娠女性の2-3割が膣に保菌する。しかし、新生児ではGBSは侵襲性感染症の主要な起因菌の一つである。侵襲性GBS感染症のearly onset diseaseは母体への予防的抗菌薬投与によって減少したが、late onset disease は減少せず、重要な周産期感染症の課題の一つである。プロバイオティクスは周産期感染症に対する有用な報告が散見されているが、新生児のGBS伝播に関してはまだ不明な点が多い。 妊娠後期スクリーニング検査でGBSが陽性となった妊婦に対して、スクリーニング陽性時から1か月健診時までプロバイオティクスの *Lactobacillus reuteri* を摂取する群と摂取しない群にランダムに割り付けて、1か月時健診のときの新生児の直腸スワブの GBS 陽性率と母児間のGBSの血清型の一致率を調査した。本研究に同意が得られたGBS陽性妊婦57例をProbiotics群（n=25）とプロバイオティクスを摂取しないControl群（n=32）にランダムに割付けた。 1か月健診時の新生児のGBS陽性率はProbiotics群で8%(n=2)、Control群で28%（n=9）と統計学的有意差はなかったが、Probiotics群の方がGBS陽性率は低かった(p=0.0902)。 1 か月健診時に陽性となった新生児 11 例のうち、母と血清型が一致したのは Probiotics 群2例中2例、Control群9例中6例で、統計学的な有意差はなかった（p=0.182）。 Probiotics接種群の方が統計学的有意差はなかったが、1か月時点での新生児のGBS保菌率は低い結果となり、母体の *L. reuteri* の投与は新生児の GBS 伝播を抑制する可能性がある。